

標準委員会 リスク専門部会 津波 PRA 分科会  
第 8 回津波 PRA 分科会議事録

1. 日 時 2011年8月30日 (月) 13:30~17:30

2. 場 所 (社)日本原子力技術協会 A,B会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 山口主査 (阪大)、桐本幹事 (電中研)、倉本委員 (NEL)、黒岩委員 (MHI)、佐竹委員 (東大)、杉野委員 (JNES)、鈴木委員 (原技協)、関沢 (竹山委員 (中電) の代理)、中井委員 (JAEA)、成宮委員 (関電)、藤本委員 (JNES)、松山委員 (電中研)、美原委員 (鹿島建設)、秋山委員 (CTC)、喜多委員 (TEPSYS) (15 名)

(欠席委員) 蛭澤副主査 (JNES)、木下委員 (NISA)、平野委員 (東京都市大)、守屋委員 (日立 GE) (5 名)

(常時参加者) 岩田 (東電)、坂田 (GIS)、佐竹(原技協)、西尾 (JNES)、安田 (関電) (6 名)

(傍聴者) 吉 (電発) (1名)

4. 配付資料

RK2SC 8-1	第 7 回津波 PSA 分科会議事録 (案)
RK2SC 8-2	津波 PRA 実施基準案
RK2SC 8-3-1	コメント対応方針整理表
RK2SC 8-3-2	コメント対応修正案 (6. 事故シナリオの同定)
RK2SC 8-3-3	第 5 章 プラント構成・特性及びサイト状況の調査
RK2SC 8-3-4	コメント対応方針整理表 (第 5 章街頭箇所のみ抜粋)
RK2SC 8-3-5	津波高さ資料 津波ハザード
RK2SC 8-3-6	コメント対応方針整理表 (津波ハザード資料対応表)
RK2SC 8-3-7	コメント対応方針整理表 (フラジリティ評価関連)
RK2SC 8-3-8	9. 事故シーケンス評価
RK2SC 8-3-9	コメント対応方針整理表 (9 章)
RK2SC 8-3-10	表 津波 PRA と地震 PRA の相違点
RK2SC 8-4-1	津波 PSA 標準へのコメント
RK2SC 8-4-2	宮田委員コメント
RK2SC 8-5	津波 PSA 分科会主要スケジュール (案)

参考資料:

- ・参考 1 第 7 回津波 PSA 分科会議事メモ (案)

5. 議事内容

議事に先立ち、開始時点で委員 19 名中 13 名が出席しており、分科会成立に必要な定足数 (13 名以上) を満足している旨が報告された。

## (1) 議事録確認

前回議事録について、資料 RK2SC 8-1 に基づいて、桐本幹事から説明があった。誤字 1 箇所を修正することで、了承された。なお、PSA に替えて PRA と表示してよいかどうかはリスク専門部会に確認することとなった。→ 了解済み(9/1 リスク専門部会)

## (2) リスク専門部会の書面投票によるコメントについて

### ①全般

資料 RK2SC 8-2-及び資料 RK2SC 8-3-1 に基づいて、桐本幹事から説明があり、次の方針でいくこととした。

- ・8.6 節の分布について、対数分布のみでなく他の方法（零、ステップ関数）もあり得るのではとの指摘に対しては、標準の手引きでは標準以外の方法を使うことも可能であるとしており、ステップ関数も方法の一つとして参考に書いてもよい。

### ②まえがき、1 章～3 章

資料 RK2SC 8-2-及び資料 RK2SC 8-3-1 に基づいて、山口主査及び桐本幹事から説明があり、次の修正をすることとなった。

- ・初めて出てくる PSA については地震 PSA 標準の正式の英文名称を記載する。

### ③4 章 評価手順

資料 RK2SC 8-2-及び資料 RK2SC 8-3-1 に基づいて、山口主査及び桐本幹事から説明があり、次の修正をすることとなった。

- ・「事故シナリオの広範な分析」から「広範な」を削除する件は、本箇所ではそれなりに意味がある文言なので残す。他の箇所については個別に判断する。
- ・「事故シナリオ」と「事故シーケンス」の関係は、地震 PSA 標準と同じく用語集で定義し対応する。

### ④5 章 プラント構成・特性及びサイト状況の調査

資料 RK2SC8-3-3 及び資料 RK2SC 8-3-4 に基づいて、成宮委員から説明があり、次の修正をすることとなった。

- ・「建屋内の漏洩パスの確認」については、区画に分離されていない所もあるので文章を工夫して追加する。
- ・「同型プラント」の定義については、本来、固有の情報を収集するのが重要である。それができない場合もあり、ウォークダウンで収集する。モデリングで対応する余地があるか等、他委員と相談し修正する。
- ・5.2.3 b) 「また、・・・収集・整理する。」は「また、・・・分析する。」とする。

### ⑤6 章 事故シナリオの同定

資料 RK2SC8-3-3 及び資料 RK2SC 8-3-2 に基づいて、黒岩委員から説明があり、次の修正をすることとなった。

- ・6.2 の表に「建物・構築物、機器等」とある用語は、他の箇所も含めて「建物・構築物、機器・配管系」の用語に統一する。ただし、フラジリティ評価においては

建屋の用語を使うことも可能。

- ・ 6.2 の遡上時の土砂移動は地震の時の影響の方が大きいので、「ただし、遡上時の土砂移動・・・」との記載に修正する。

#### ⑥7章 津波ハザード評価

資料 RK2SC 8-2、資料 RK2SC8-3-5 及び資料 RK2SC 8-3-6 に基づいて、松山委員から説明があり、次の修正をすることとなった。

- ・ 津波波源という用語は、そのままでよいものとする。
- ・ 7.1e)の 1)と 2)の内容の違いがわからない件は、頻度と確率の違いがあるので、それを踏まえて記載を修正する。
- ・ 津波高さ関連の用語について資料 RK2SC8-3-5 を参考に本文等の見直しをする。

#### ⑦8章 建屋・機器 fragility 評価

資料 RK2SC 8-2 及び資料 RK2SC 8-3-7 に基づいて、美原委員から説明があり、次の修正をすることとなった。

- ・ 漂流物の衝突については、サイト内にあるものを対象とする案、また着岸している大きな船のみでよいとする案などがあり、確率でスクリーニングする必要がある。専門家に聞いて確率で処理することを記載する。記載は別冊で対応する。

#### ⑧9章 事故シーケンス評価

資料 RK2SC 8-2、資料 RK2SC8-3-8 及び資料 RK2SC 8-3-9 に基づいて、倉本委員から対応方針について説明があった。

また、資料 RK2SC 8-3-10 に基づいて、喜多委員から津波 PRA と地震 PRA の相違点について説明があった。

#### ⑧その他

資料 RK2SC 8-4-1 及び資料 RK2SC8-4-2 に基づいて、桐本幹事から宮田委員からのコメントの紹介があり、次の修正をすることとなった。

- ・ 津波遡上解析の要求事項が 7 章本文から抜けているという指摘については、津波遡上解析を必ずしも実施するわけではないので 4 章の評価手順において「津波遡上解析」を「津波遡上の評価」に修正する。

#### (3) スケジュール及びその他事項について

今後のスケジュールについて、資料 RK2SC8-5 に基づいて、桐本幹事から説明があった。標準委員会の書面投票期間を十分にとった方がよいとの意見が出され、9/15 に予定していた次回分科会はとりやめ、書面投票開始を早める方向で調整を依頼することとなった。

#### (8) 今後の予定

第 9 回 未定（標準委員会の書面投票の後）

以 上